

仕合わせの和



第212号

令和元年 11. 1
(毎月1日発行)

祖廟輪番奉仕とは？

住職 谷川寛俊

去る十月二十三、二十四日の一泊二日で、身延山団体参拝に行つてまいりました。山梨県地方は、台風の影響で前日まで強風に見舞われていましたが、これも神仏様のご加護のお陰で、二日間とも晴天に恵まれました。

身延山参拝で特に大切な行事の一つとして「祖廟輪番奉仕」といふ儀式があります。これは日蓮聖人が御入滅(ごにゆうめつ)お亡くなりになる(五日前に、日蓮聖人の大勢のお弟子の中でも代表の六師(日昭・日朗・日興・日向・日頂・日持)を選定されました。この六師を俗に「六老僧(ろくろうそう)」と申しますが、そのお弟子の前で、「いづくにて死に候(そうろう)とも、墓をば身延山に建てさせ給(たま)え」との御遺命により、この六老僧の方々によつて、お墓をお守りになつてきました。

日蓮宗では、この六老僧の足跡に従い、祖廟輪番奉仕を行う事は大事な勤めとなつており、誠に尊い参拝のあり方なのであります。真成寺では、先代住職より始められて、今年で五十八回目の祖廟輪番奉仕(給仕)となりました。これは全国でも10本の指に数えられる回数とのことで、檀家の皆さまと大いに誇りに思いたいと存じます。また、この輪番奉仕に10回参加されると本山より立派な感謝状が授与されます。すでに真成寺では九名の方が受けておられ、ご存命の方は金三津博士さんお一人です。今回八回目の方が二人おられました。さぞ日蓮聖人も御嘉賞(ごかしよう)されておられると存じます。

ところで、その輪番奉仕の内容というのは、最初に委嘱式(いしよくしき)と申しまして、法主猊下(ほつすげい)より、住職並びに檀信徒の皆さまに、今日一日法主猊下に成り代わり、日蓮聖人に御給仕をお願いされる儀式です。この時住職は、法主猊下より中啓(ちゆうけい)僧侶が持つ法具を授与され、住職は輪番奉仕を勤める参

真成寺ホームページ

<https://bit.ly/2Gz55Mz>

編集・発行
玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でも
お寺につながります。

加者の氏名を記載する記帳簿(永遠に残る)を法主猊下に奉呈します。

次に、法儀に移り、法主猊下より委嘱を受けた住職は御真骨堂(ごしんこつどう) 拝殿(日蓮聖人のお骨が祀られている堂)にて奉仕団体参加者(檀信徒)の皆さまのお名前を一人ずつ読み上げ、日蓮聖人へ、お給仕のご報告と誓いを捧げ、最後に奉仕団代表の方が「誓の言葉」を述べます。続いて御真骨堂の内拝をします。この時、中央に祀られてある日蓮聖人の御真骨を間近で拝する機縁を頂戴します。御真骨を拝せるのは、輪番奉仕における奉仕団のみにかなう事でありませぬ。さらに「霊山の契(りようぜん)のちぎり」を授与されます。この「霊山の契」というのは、わかりやすく言うならば、やがて私達はお迎えが来て、三途の川を渡る時、間違ひなく安心して旅立つための(橋渡しとしての)切符を頂戴することが出来るのです。

「この法華経は三途の川にては船となり、死出の山にては大白牛車(だいびやくごしや)となり、冥途にては燈(ともしび)となり、霊山(りようぜん)へ参る橋なり。霊山へましまして良(うしとら)の廊(わたりど)にてたずねさせ給え。日蓮必ず待ち奉るべく候」

これは日蓮大聖人のお言葉でございます。つまり日蓮大聖人が仰りたいことは・・・

「法華経・お題目を信仰する者は、やがて三途の川に來た時、閻魔法皇(えんまほうおう)が、あなたはどこから來た者かと聞かれたら、法華経・お題目を信仰する者です。日蓮聖人の弟子であると伝えなさい。そうすれば、私が(日蓮)が霊山浄土までお導いたします。

このように法華経を信仰する私たちに、日蓮聖人がお約束して下つていふのです。信じる心が「信心」です。皆様の益々の「信心」をご祈念申し上げます。

明年も是非ご参加下さい。

